

發 達 支 援 課

発 達 支 援 課

最重要課題

障がいや発達課題のある子どもへの生涯にわたる一貫した支援の推進

重点目標

障がいや発達課題のある子どもが、地域でともに育ち、学び、働き、暮らす支援の体制づくりに取り組み、障がいの有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう共生社会を目指す。

重点事項

1 特別支援教育の充実

(1) 一人ひとりの障がいの状態や発達の段階等に応じた指導・支援の充実

ア 特別支援教育コーディネーターを核とする特別支援教育校内委員会の機能を充実させ、一人ひとりの実態を的確に把握し、個別の教育支援計画を作成・活用することにより、児童生徒のニーズに応じた指導の充実に努める。

イ 授業形態や集団の構成の工夫、それぞれの教師の専門性を生かした協力的な指導などにより、効果的な学習活動の展開に努める。

ウ 特別支援学級の児童生徒と通常の学級の児童生徒、特別支援学校の児童生徒と小・中学校との交流及び共同学習を計画的に推進し、温かい人間関係づくりに努める。

(2) 学校、家庭、地域、関係諸機関が連携した特別支援教育の充実

ア 様々な機会を通して、特別支援教育に対する理解、啓発に努める。

イ 幼・保・小、小・中などの連携を密にし、児童生徒の理解促進と教育活動の充実を図る。

ウ 教育相談、特別支援教育校内委員会の充実と保護者を交えた支援会議の実施により、効果的な支援に努める。

エ 特別支援学校のセンター的機能を活用し、特別支援教育の充実を図る。

オ 発達支援課による相談、指導、支援、研修等の事業の積極的な活用と連携を強

化し、自校の特別支援教育の充実を図る。

(3) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育環境の整備・充実

ア 教育的ニーズの多様化及び障がいの重複化に対応できるよう、教員の専門性の向上を図る。

イ 小学校において、学校支援員制度の効果的な活用により、発達障がいのある児童の適切な支援に努める。

ウ 児童生徒の障がいの状態等に応じた施設・設備の計画的な整備充実を図る。

2 発達支援の推進

(1) 関係機関の連携による継続した支援

障がいや発達支援に関わる医療、保健、福祉、教育、労働、地域の各関係機関を構成メンバーとする発達支援協議会において、今後の地域における関係機関相互の効果的なネットワーク方策と早期支援の総合的な支援システムの構築を図る。

(2) 早期発見、早期支援体制の充実

ア 医療機関や保健センター等と連携し、乳幼児健康診査時における障がいや発達課題の早期発見のためのスクリーニング強化方策（M-CHAT）の導入調査と効果の検証、専門家の研修等による早期発見のノウハウの蓄積など就学前の早期発見体制の強化を図る。

イ 障がい等が発見された幼児、児童（小学生低学年）を対象に、障がいの特性理解、生活スキルや行動特性の評価、個別療育等を内容とする早期教育（療育）相談を実施し、早期療育及び小集団活動の実践的運用と効果の実証により早期支援システムの確立を図る。

ウ 専門研修等を通じて保健師、保育士、指導員、教職員等関係職員の専門性の向上を図るとともに「見きわめ力」を高め、乳幼児健診、保育所、児童福祉施設、学校施設等において早期発見、支援体制の充実を図る。

(3) 相談支援体制の充実

ア 専門家による保育所、幼稚園、小・中学校での巡回相談を実施し、障がいや発達課題の早期発見、早期対応及び継続支援の充実を図る。

イ 障がいや発達課題のある子どもだけでなく、その兄弟姉妹や家族に対しても適切な情報の提供と相談や助言など必要な支援を行うため、実効性のある相談支援

体制の整備を図る。

(4) 個別の支援計画（サポートファイル）の作成、活用

障がいや発達課題のある子ども一人ひとりのニーズに対応し、多様な関係機関からの支援を総合的に調整していくためのツールとして、保護者と協働で個別の支援計画、個別の教育支援計画を作成し、効果的な運用と定期的な見直し、確実な引き継ぎを実施する。

(5) ボランティア、地域との連携

ア 住み慣れた身近な地域で療育やサービスが受けられるように、地域で様々な活動を行っている親の会や子育てサークル、NPOなどに対して必要な支援を行い地域資源の充実を図る。

イ 障がいや発達課題のある人の自立した地域生活と社会参加を推進していくために、本人や家族が孤立することのないように地域社会全体での見守りと支援体制の整備を進める。

(6) 専門的知識を有する人材の確保

障がいや発達課題の子どもたちへの適切な支援を確保していくために、医療、保健、福祉、教育、労働等の分野において、専門的知識を有する人材の確保に向けた取り組みを進める。

(7) 障がいに対する啓発の推進

発達障がいなどに対する理解を深めるとともに、障がい者がいきいきと安心して生活できる地域づくりを目指して広報、講演会や研修会など普及、啓発活動を積極的に行う。

事務事業等の自己点検評価票

担当課所：発達支援課

事務事業名		発達支援教育充実費				
予算額（千円）	決算額（千円）	不用額（千円）		予算区分		
1,346	384	962		経常 施策 公共・単独		
事業の概要 （課題と目的）		障がいや発達課題のある子どもが地域で自立した生活ができるように、各幼稚園、保育園、小学校と連携を強化しながら就学前、学齢期における早期発見、地域療育体制の整備充実を図る。				
事務事業の内容 （成果、結果、執行状況等）		早期教育相談事業（親子通園事業）の実施により、教育的ニーズに応じた早期からの療育支援を身近な地域で受けることができ、生活スキル等の向上が図られた。また、職員の派遣研修により、資質や支援技術の向上、他療育機関との連携強化が図られた。				
自己評価	評価年度	平成22年度			平成21年度	
	妥当性	Ⓐ	B	C	D	E
	効果性	A	Ⓑ	C	D	E
	効率性	A	Ⓑ	C	D	E
前年度からの改善状況		平成21年6月から、療育指導員の派遣と心理相談員による早期教育相談事業（親子通園事業：月2回）を開始した。				
今後の方向性（継続、廃止、その他）		障がい等の状況に応じ、身辺自立や生活スキル、コミュニケーションスキル等の向上を図るために、年齢別療育や個別支援の充実、毎日通園ができるように事業の拡充を図る必要がある。				

事務事業等の自己点検評価票

担当課所：発達支援課

事務事業名		幼稚園特別支援教育充実費				
予算額（千円）	決算額（千円）	不用額（千円）		予算区分		
764	722	42		経常 <u>施策</u> 公共・単独		
事業の概要 （課題と目的）		障がいや発達課題のある幼児が在籍する市立幼稚園において、生活や学習上の困難を有する幼児に対し、生活上の介助や学習指導上の支援を行うために学校生活介助員を配置し、特別支援教育の充実を図る。				
事務事業の内容 （成果、結果、執行状況等）		学校生活介助員の配置により必要な支援を行うことで、幼児の学習効果を高めるとともに、幼稚園生活へのよりよい適応や円滑な学級運営、就学体制の充実など特別支援教育の充実が図られた。				
自己評価	評価年度	平成22年度			平成21年度	
	妥当性	Ⓐ	B	C	D	E
	効果性	Ⓐ	B	C	D	E
	効率性	Ⓐ	B	C	D	E
前年度からの改善状況		安全確保の措置や重度の障がい等がある場合には、障がい園児1名につき介助員1名を配置できるように介助員の配置基準の見直しを図った。				
今後の方向性（継続、廃止、その他）		生活介助員の支援技術や技能の向上を図るとともに、市内の私立幼稚園に対する特別支援教育の振興策（支援策）を検討する必要がある。				

「学識経験者の意見」及び「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

○発達支援教育充実費

「学識経験者の意見」

- ・よい事業ですが、今後は障がい状況や取得スキルに応じたきめ細やかな事業となればよりよいと思います。
- ・発達支援準備室からいよいよ発達支援課創設となりました。ここに至るまでのご苦勞、ご努力に敬意を表します。準備が整い、早速に新たな早期教育相談事業実施となり、障がいや発達課題のある子どもたちが身近な地域の中に親子で通園でき、専門的研修を積んだ療育相談員、心理相談員、保健師、先生達から質の高い適切な支援を受けられるようになり、本人、家族が安心して暮らせるようになっていくこと、長年の期待が実現化したことと高く評価します。

本年は月2回の実施ですが、更なる充実を図り、通園日数を一層に増やせるよう推進して下さい。

「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

これまで保健センターでの1歳6カ月・3歳児検診の後、子どもの発達に不安を抱えた保護者はどこへ相談に行けばいいのかわからない状況で、人伝えにより市外の療育施設を頼っていく場合もありました。このようなことから、早期から発達相談を行い、早期教育相談事業を実施し、療育を行っていく中で個別の目標に合わせた具体的な支援の方法についてモデル提示を行い、特性に合った支援を目指しています。平成22年度は、子どもの発達の状況に応じ親子通所のクラスを2つに分けそれぞれ月2回実施しております。

また、平成22年10月から「こども発達支援センター」を開所したことにより、安心して相談できる場所が確保され、また、ことばの教室も同施設内に移設し環境が整備されたことから、今後は人材の確保、人材の育成を図り、いつでも通所ができる体制づくりを目指していきたいと考えております。

○幼稚園特別支援教育充実費

「学識経験者の意見」

- ・ノーマライゼーションの推進のためにも特別な事業としてではなく普通のもの

して継続実施していただきたい。

・新規事業として市立幼稚園に在籍する障がいや発達課題のある幼児に生活介助員を配置。就学前からきめ細かな支援が得られることとなり、安心して園生活に溶け込め学習成果を高め、能力向上につながっていくことと評価します。更に私立幼稚園へも支援を拡げていけるよう、進展を図っていければなお一層に意義ある事業になります。

「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

市立幼稚園で安全に安心して過ごすことができるよう、支援が必要な園児が入園した場合、障がいの状況等を考慮し、生活介助員を配置しております。

また、私立幼稚園についても平成22年度から特別支援教育の充実のため、障がいのある園児が入園する場合において、職員の人件費の助成を行っております。このことにより私立幼稚園において、障がいのある園児を受け入れ、個別の支援が実施されることを支援していくとともに、その効果が発揮されるよう巡回相談等において助言してまいります。

○その他事業

「学識経験者の意見」

・発達支援課の創設により障がいや発達課題のある子どもが一人ひとりのニーズにあった専門性高い支援を地域の中で受けられ、親も子も安心して学べるようになりました。生き生きと学ぶ中で能力も高まり、自立心も育まれていくことと思います。みんなが輝く明るい共生社会構築を目指し益々特別支援教育の充実を図って行って下さい。

「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

平成22年10月に開所した「こども発達支援センター」を新居浜市における特別支援教育、発達支援の中核的機関と位置付けております。障がいや発達に課題のある子どもが将来を見据え、地域の中で自立していくことができるよう、子どものライフステージに応じ関係機関との連携強化に努め、一貫した支援を行ってまいります。

体 育 文 化 課

郷 土 美 術 館

広 瀬 歴 史 記 念 館

体 育 文 化 課

重点目標

1 体育・スポーツ活動の推進・充実

すべての市民が親しめる生涯スポーツの普及と競技スポーツの向上を図り、「健康でスポーツの盛んなまち」づくりをめざす。

2 芸術・文化活動の推進・充実

地域の芸能・文化活動をより一層発展させるため、市民の自主的な参画を促進し、すそ野の拡大と質の向上を図る。

重点事項

1 市民体育・スポーツ振興

- (1) 市民体育スポーツの振興と社会教育団体等の組織の充実を図るため、市体育協会等の団体を支援する。
- (2) スポーツ関係指導者の資質の向上と育成を図るため、講習会、研修会を開催する。
- (3) 競技スポーツ向上の基盤となる青少年のスポーツ活動の促進を図るための各種スポーツ教室・スポーツ大会を実施する。
- (4) 各種スポーツ大会への選手派遣の助成を行う。

【主な年行事】

市民体育祭、青少年スポーツ大会、スポーツ指導者講習会

2 芸術文化活動の奨励

- (1) 地域住民が積極的に各種の芸術文化活動に参加し、創作や表現の喜びを味わえる機会の拡大を図るための発表・展覧会を実施する。
- (2) 文化協会その他のグループ・サークルの活動の促進を図るため芸術文化事業を支援する。
- (3) 中央の優れた芸術鑑賞、機会の拡充を図るため、公演会を開催する。

【主な年行事】

にはま春の市民文化祭、秋の芸術祭、市美術展覧会

3 文化財の保存活用

- (1) 市民の文化財に対する理解と認識を深めるため、文化財・史跡めぐり等を開催する。
- (2) 文化財の調査研究記録・遺跡台帳の整備を図るため、文化財パトロール、現地調査を実施する。
- (3) 公共事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を実施する。

【主な年行事】

文化財めぐり

郷土美術館

重点目標

見る・ふれる・創るを主題に鑑賞・創作活動を触発し、市民の文化意識の高揚と文化活動の振興を図る。

重点事項

1 文化遺産の顕現と伝承

- (1) 資料の収集
- (2) 資料の調査研究、図書充実
- (3) 資料の作成、補修
- (4) 資料の整理、保存
- (5) 学識者、協力員の確保

2 文化展等行事の実施

- (1) 常設展示の内容充実
- (2) 特別展の実施
- (3) 企画展の実施
- (4) 研究会・講習会の開催
- (5) 教室の開設
- (6) 一般展示への会場供与
- (7) 学校・公民館等への資料の貸出

広瀬歴史記念館

重点目標

日本の近代化産業を育成した広瀬幸平翁の功績を正しく理解し、新居浜の生い立ちと近代化の歩みを後世に伝えるとともに、未来に向かって市民の活力をはぐくみ、文化遺産の継承と生涯学習の拠点施設として活動の振興を図る。

重点事項

1 広瀬幸平と近代化遺産の顕彰と伝承

- (1) 資料の収集及び整理保存
- (2) 資料の調査研究と作成・補修
- (3) 関係機関との協調連携
- (4) 図書の充実
- (5) 学者、協力者の確保

2 企画展、行事の開催

- (1) 展示内容の充実（常設展示）
- (2) 特別企画展の実施（年1回）
- (3) 主催事業（研修会、講演）

3 市民へのPR活動

- (1) 文化協会等との連携
- (2) 学校や公民館等諸団体への活動
- (3) 各種のPR資料作成と配布

事務事業等の自己点検評価票

担当課所：体育文化課

事務事業名		体育施設環境整備事業									
予算額（千円）	決算額（千円）	不用額（千円）		予算区分							
77,163	69,712	7,451		経常・施策・公共 単独							
事業の概要 （課題と目的）		市民体育館を中心に17の体育施設が整備され、スポーツの盛んなまちづくりを推進するため、各施設の維持管理の補修及び改修等を実施する。平成18年度から（財）新居浜市文化体育振興事業団が指定管理者として管理を行っている。									
事務事業の内容 （成果、結果、執行状況等）		修繕工事（山根公園市民テニスコート改修、市民プールろ過タンク更新、東雲陸上競技場標示タイル等）を実施し、利用者の利便性の向上を図った。									
自己評価	評価年度	平成22年度			平成21年度						
	妥当性	Ⓐ	B	C	D	E	A	Ⓑ	C	D	E
	効果性	A	Ⓑ	C	D	E	A	Ⓑ	C	D	E
	効率性	A	Ⓑ	C	D	E	A	Ⓑ	C	D	E
前年度からの改善状況		緊急性、重要性を考慮して計画的に修繕を実施した。									
今後の方向性（継続、廃止、その他）		施設全体の老朽化が進み、大規模改修が必要であるが、利用者が安心して利用できるよう継続して維持管理していく。									

事務事業等の自己点検評価票

担当課所：体育文化課

事務事業名		芸術文化振興事業		
予算額（千円）	決算額（千円）	不用額（千円）	予算区分	
3,925	3,909	16	経常・ 施策 ・公共・単独	
事業の概要 （課題と目的）		優れた芸術文化を鑑賞する機会が少ない市民、小中学生に対し、質の高い音楽を鑑賞する機会を提供し、豊かな心と創造性を育むことを目的とする。		
事務事業の内容 （成果、結果、執行状況等）		瀬戸フィルオーケストラによるミニオケの学校出前コンサートを2校で、横笛奏者 福原寛 さんによる学校出前コンサートを3校で実施した。旧広瀬邸でも一般市民を対象とした邦楽コンサートを実施した。 また、第6回郷土芸能発表会を実施し、身近な地域や学校で芸術文化を体験することができた。		
自己評価	評価年度	平成22年度	平成21年度	
	妥当性	Ⓐ B C D E	Ⓐ B C D E	
	効果性	Ⓐ B C D E	Ⓐ B C D E	
	効率性	A Ⓑ C D E	A Ⓑ C D E	
前年度からの改善状況		学校出前コンサートを洋楽と邦楽の異なるジャンルで実施し、それぞれ芸術文化のもつすばらしさを体験することができた。		
今後の方向性（継続、廃止、その他）		小さい頃から優れた芸術文化に触れることは、子どもの成長に刺激を与え、豊かな心を創造してくれるため、今後も継続する。		

事務事業等の自己点検評価票

担当課所：郷土美術館

事務事業名		郷土美術館充実事業		
予算額（千円）	決算額（千円）	不用額（千円）	予算区分	
4,079	2,688	1,390	経常・ 施策 ・公共・単独	
事業の概要 （課題と目的）		地域の優れた文化及び芸術作品の紹介を行い、市民の文化の向上発展に寄与する。		
事務事業の内容 （成果、結果、執行状況等）		<p>企画展を開催し、優れた文化及び芸術作品を広く紹介した。また、郷土美術館の誘導灯修繕をはじめ老朽箇所を修繕した。</p> <p>企画展</p> <p>「高橋祥翠書展」平成21年9月12日～9月20日（9日間） （入場者数 689人）</p> <p>「森本洋油絵展」平成22年1月16日～1月24日（9日間） （入場者数 2,226人）</p> <p>「文化教室成果発表会」 平成22年3月4日～3月14日（10日間） （入場者数 858人）</p>		
自己評価	評価年度	平成22年度		平成21年度
	妥当性	Ⓐ	B C D E	Ⓐ B C D E
	効果性	Ⓐ	B C D E	Ⓐ B C D E
	効率性	A	Ⓑ C D E	A Ⓑ C D E
前年度からの改善状況		入館者の増大を図るため、これまでの広報活動に加え、フリーペーパーなどを活用し、多くの市民に周知した。また、企画展でワークショップ等を実施し、低年齢層の利用促進に努めた。		
今後の方向性（継続、廃止、その他）		各種企画展等を継続して開催し、文化の向上発展に寄与する。		

事務事業等の自己点検評価票

担当課所：広瀬歴史記念館

事務事業名		広瀬歴史記念館充実事業		
予算額（千円）	決算額（千円）	不用額（千円）	予算区分	
5,209	4,331	878	経常・ 施策 ・公共・単独	
事業の概要 （課題と目的）		旧広瀬邸の重要文化財指定、別子銅山の世界遺産登録への取組などにより、近代化産業遺産に対する注目度が高まりつつある。さらに市民の認知度を高め、理解を深めるため、特別企画展を開催する。		
事務事業の内容 （成果、結果、執行状況等）		特別企画展 「広瀬家ゆかりの洋食器」 平成21年7月5日～8月16日 （入館者数 930人） 「新居浜の登録有形文化財」 平成21年11月14日～12月13日 （入館者数2,514人）		
自己評価	評価年度	平成22年度		平成21年度
	妥当性	Ⓐ	B C D E	Ⓐ B C D E
	効果性	A	Ⓑ C D E	A B Ⓒ D E
	効率性	A	Ⓑ C D E	A Ⓑ C D E
前年度からの改善状況		特別企画展「新居浜の登録有形文化財」を山根大通りストリートミュージアムに合わせて開催した。		
今後の方向性（継続、廃止、その他）		新居浜市や近代日本の成り立ちを、多くの人にも知らせてもらうため、多種多様なテーマについて企画展等を行っていく。		

「学識経験者の意見」及び「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

○体育施設環境整備事業

「学識経験者の意見」

- ・安心して安全に使えるよう定期的一斉点検も限られた予算内ではありますが、取入れられることを望みます。
- ・各施設の老朽化が進み補修、改修を必要とするところが多く、予算との兼ね合いの中で苦慮するところでしょうが、安全性を第一に優先順位で適性に管理運営していただきたい。

「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

老朽化等により、施設の利用に支障をきたす箇所¹の修繕、使用者の利便性の向上、施設の有効利用を図るための施設整備等を緊急性、必要性を考慮のうえ実施し、今後とも快適な体育施設の使用環境を整え適正な体育施設の維持管理に努めてまいります。

○芸術文化振興事業

「学識経験者の意見」

- ・より多くの学校で実施されることを望みます。
- ・子どもの時に受けた感動、高揚感、刺激は将来への感性、創造性を培っていく原点です。限られた予算の中でしょうが、真に価値ある優れた芸術文化を小中学生に提供できるよう、選定に力をいれると共に実施回数を増やせるようご努力下さい。

「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

学校出前コンサートについては、学校の要望も踏まえた内容とするとともに文化庁が実施している事業などの情報を学校に提供し、より多くの学校で実施できるよう努めます。

○郷土美術館充実事業

「学識経験者の意見」

- ・美術館ボランティアの育成、また美術館友の会の結成等を通して、利用者を増やす工夫も考えられよう。
- ・毎月、何がしかの展示物（展覧会）があるように利用推進をより進めていただきたい。

・入館者、年々微増でしたが、本年度は積極的なPRへの改善を図った結果が一層増加したことは評価します。企画展の選定では予算上の課題もあるのですが、数年前には何回か日本的に著名な作家の企画展が実現され、感動的な鑑賞を体験でき、多くの市民の好評を得ました。在住の郷土作家に光をあてることも全市民的な文化の向上発展の上から大切なことではありますが、地方に住む私たち市民が、より高い感動を味わい感性を磨くという面から更に優れた作家の企画展もご検討いただきたい。

「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

小中学生の郷土資料の見学時に、美術館ボランティアによる解説を実施するとともに企画展等で実施しているワークショップの充実を図ります。

また、一般展の開催をはじめ、ロビー展を積極的に実施していますが、更に展示物の充実を図るため、稼働率の低い2階の展示室の利用について検討いたします。

今後も、市民の文化の向上を図るため、市内在住の郷土作家を紹介するとともに、全国的に著名な芸術作家の作品を紹介し、魅力的な企画展を計画してまいります。

○広瀬歴史記念館充実事業

「学識経験者の意見」

・新居浜についての歴史、文化、自然、伝承、諺、郷土料理、祭りなどを体系的に学べる「新居浜学」づくりをすすめる。それらの核として広瀬歴史記念館を位置付けたらどうか。新居浜についてどれだけ知っているか、それを評価する検定制度を創り上げる。検定で上級をねらうためには、記念館で調べ、学ぶしかない。そうした仕組みを作ってみたらどうだろうか。

・市民の大多数が、「おらが記念館」だと誇りに思え、集えるものにして頂きたい。そのためには、展示内容や方法の見直し、季節による入替え等も考えていくべきと思います。

・年々、市内の様々な団体やボランティアグループ、学校、公民館など市民自らが立ち上がって近代化産業遺産に光を当て、学びを深め全国へ熱く発信する活動が活発化しています。そのような中であって展示的、研究的館で良いのか、より意欲的な近代化産業遺産の情報拠点、郷土学習の拠点、発信紹介の支援拠点としての役割を担い得る施設に向かっていたいただきたい。

特別企画展開催について熱心に取り組んでいますが、静的視点からのプランニングで

歴史的、研究的、学問的展示に落ち着いているようにみられます。立ち位置、趣向を大きく転換し、もっと動的に市民の心に響くように廣瀬翁、伊庭貞剛、先哲の歩み、近代化産業遺産の素晴らしさを伝える方策を検討し、生き生きとした企画展をプランニングしていただけたらと期待します。感動の中からこそ真の誇りや愛着が生まれ、未来へつないでいく力が湧いてくると思うのです。

また特に次代の新居浜市を背負って立つ子どもたちに本市の生い立ち、先人の偉業、近代化産業遺産の価値を未来へつないでいく役割を学校との連携の中で担って欲しいのです。

「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

今後とも、市内のボランティアグループ、学校、公民館等が実施する近代化産業遺産関連の行事や商工会議所が実施する「新居浜検定」に資料を提供するなど、積極的に郷土の情報発信に協力してまいります。

また、小中学生に対しては、引き続き出前講座や見学の利用を学校に呼び掛けるとともに、小中学生向きの展示や解説について改善を図ってまいります。

平成23年度に開催が予定されている環境自治体会議に合わせて、「100年前の環境対策」をテーマに伊庭貞剛の企画展を開催し、郷土の先人の偉業を紹介してまいります。

学 校 給 食 課

学校給食センター

高津共同調理場

学 校 給 食 課

重点目標

子どもたちの健康を守るとともに、安全で喜ばれる給食づくり

重点事項

- 1 食中毒予防対策の徹底を図り、衛生管理の向上・安全保持に努める。
- 2 学校給食設備・備品の整備充実に努める。
- 3 適正な物資の調達に努める。
- 4 地域農産物の活用に努める。
- 5 学校・家庭・地域が連携し、食生活の改善を図るとともに食文化の継承等に努める。
- 6 心のふれ合う楽しい学校給食の展開に努める。
- 7 学校の教育活動全体を通して、実践的・総合的な食に関する指導に努める。
 - (1) 発達段階に即した指導
 - (2) 個人に応じた指導（アレルギーに対応した給食等）
 - (3) 献立を通じた指導
 - (4) 多様な経験ができる指導

事務事業等の自己点検評価票

担当課所：学校給食課

事務事業名		給食運営改善事業		
予算額（千円）	決算額（千円）	不用額（千円）	予算区分	
18,900	18,165	735	経常・施策・公共・ 単独	
事業の概要 （課題と目的）		本市では、児童及び生徒の心身の健全な発達に資することを目的に、昭和23年から学校給食を実施しているが、厨房施設・設備等の老朽化が進んでいる。このため安全でおいしい給食を提供するために、施設・設備等の適正な維持管理・更新及び改善が必要である。		
事務事業の内容 （成果、結果、執行状況等）		市内18学校給食調理場（対象児童・生徒数、約10,500人）の厨房関係施設・設備及び食器等の修繕及び更新を行った。主要設備等については、年次別に計画を立て実施している。しかし、各調理場からの更新・修繕の要望等の件数が多いため、すべての要望に対応しきれていないのが現状である。 消耗品費2,941,332円、施設修繕料759,633円 器具修繕料2,855,574円、備品購入費11,607,855円		
自己評価	評価年度	平成22年度		平成21年度
	妥当性	Ⓐ	B C D E	Ⓐ B C D E
	効果性	Ⓐ	B C D E	Ⓐ B C D E
	効率性	A B	Ⓒ D E	A B Ⓒ D E
前年度からの改善状況		主な備品の購入状況 金子小（回転釜・デジタル台はかり）471,135円 金栄小（球根皮むき機）393,750円 南中・中萩中（配膳台）101,535円 センター（搬送コンテナほか）2,146,800円		
今後の方向性（継続、廃止、その他）		安全な学校給食の提供を行うためには、適正な維持管理や施設・設備の更新等が必要不可欠なものであり、今後においても継続して維持管理等を行う。		

「学識経験者の意見」及び「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

○給食運営改善事業

「学識経験者の意見」

- ・センター方式にするのかどうか。少子高齢化の問題による学校の統廃合化、高齢者施設の増加等との関係をも視野に入れて、考えていく必要がある。
- ・そろそろ市全体での学校給食の在り方を再検討すべき時期がきたと感じます。（自校方式からセンター方式への一本化等）
- ・平成13年、学校給食センター開所時、中学の給食選択率は54.1%、年々上昇し、平成21年度は88%にまでなったことは安全でおいしく信頼される給食が提供されている成果と改革改善のたゆまぬ努力を高く評価します。18の学校給食調理場の厨房施設、設備の老朽化の進む中で更新、修繕の要望が多く厳しい状況でしょうが、不安のない安全な給食提供を第一に優先順位で維持管理に尽力して行って下さい。食材提供に工夫が図られ、地産地消率40%とよりよく推進されています。食育教育にもつないで下さい。

「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

各学校調理場の修繕計画・改築計画等については、今後早い時期において、自校方式の改築（新築）、またセンター方式の新築を含めて、関係者（学校教育課、学校給食会、共同調理場運営委員会等）と協議してまいりたいと考えております。

厨房施設、設備の維持・更新については、安全な給食提供を第一に維持管理に努めてまいります。

地産地消については、今後とも意欲的に推進してまいります。

○その他事業

「学識経験者の意見」

- ・学校給食課を学校教育課に統合し、名実ともに給食教育として考えていくのも良いかと考えます。
- ・各校の給食調理場の厨房施設、設備が年々老朽化していく中でセンター統合化への検討をより具体的に推進していく時期に来ていると考えます。

「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

給食教育については、学校給食課が現場、学校教育課が指導の立場で連携をとって取り組んでおります。

また、給食調理場の改築計画等については、今後早い時期において、センター方式調理場の新築を含めて、関係者（学校教育課・学校給食会・共同調理場運営委員会等）と協議してまいりたいと考えております。

図書館

図 書 館

重点目標

市民一人ひとりの自立性の向上に寄与し、あわせて地域経済の発展に貢献できる「市民に役に立つ図書館」づくりを進めます。そのために、図書に親しむ機会を提供し、生涯学習及び地域の情報拠点として資料の充実、施設の機能の拡充整備に努め、豊かな心と創造性を育むまちづくりを目指します。

重点事項

1 市民の生涯学習活動の支援、推進と機会の提供

市民の自主的、自発的な学習活動を支援するため、資料・情報提供の推進及び学習機会の提供に努める。

2 学校図書館の支援

学校図書館の本来の目的である「学校の教育課程の発展に寄与する」ために、学校図書館支援員を派遣し、学校図書館の機能である「学習情報センター機能」「読書センター機能」「教材情報センター機能」の充実を図る。

3 移動図書館の利用促進

学校の昼休み乗り入れや、高齢者福祉施設、病院、幼稚園等へのステーション設置により、利用促進を図る。

4 郷土資料の保存と情報発信

郷土資料の紹介リスト等を作成し、ホームページに掲載する。また、古文書をデジタル化し、保存する。

5 関係機関との連携による地域の情報拠点化の推進

市民の読書活動の推進及び地域課題の解決を支援するため、公共図書館相互の連携のみならず、他の関係機関との資料や情報の相互利用等の協力活動の積極的な実施に努める。

本市子育て支援施策との連携、健康支援、ビジネス支援、行政支援の実施、地域等関連情報の提供と調査研究を行う。

6 市民ボランティアの活動支援の推進

現在のボランティアへの活動支援や学校図書館支援員等による地域ボランティアの育成を図る。

7 資料の収集、除籍の計画的な実施

資料の有効活用を図るため、図書資料の収集、除籍の選定を迅速・計画的に行う。

8 図書館PR活動の充実

図書館を使いこなせる市民をふやすため、図書の専門家である司書による図書館活用法をPRする。

事務事業等の自己点検評価票

担当課所：図書館

事務事業名		移動図書館運営事業			
予算額（千円）	決算額（千円）	不用額（千円）		予算区分	
4, 149	4, 139	10		①・施策・公共・単独	
事業の概要 (課題と目的)		図書館から離れた地域、長期入院・施設入所により図書館利用の困難な方への貸出返却サービスを拡大するため、市内全域に移動図書館（青い鳥号）を巡回させる。			
事務事業の内容 (成果、結果、執行状況等)		市内30箇所（小学校12箇所、中学校2箇所、その他16箇所）にステーションを設置し、2週間に一度、移動図書館（青い鳥号）に約3,000冊の本を積んで、本の貸出返却を行った。別子山地区には3箇所毎月1回巡回した。 年間運行日数158日 貸出点数63,919点（一日当たりの貸出点数405点）			
自己評価	評価年度	平成22年度		平成21年度	
	妥当性	①	B C D E	①	B C D E
	効果性	A	② C D E	A	② C D E
	効率性	A	② C D E	A	② C D E
前年度からの改善状況		平成21年4月にステーションと巡回時間の見直しを行い、6ステーションを追加した。昼休みに一部小学校へ乗り入れを開始した。 また、長期入院、施設入所等により図書館利用の困難な方へのサービスを開始した。			
今後の方向性（継続、廃止、その他）		小中学校については学校図書館支援員と連携して、児童生徒により本への興味をもってもらえるよう読書案内、図書リスト等を作成し、利用促進を図る。その他のステーションについては、時節にあった資料の配架、新刊本紹介等で利用促進を図る。			

事務事業等の自己点検評価票

担当課所：図書館

事務事業名		図書館利用促進事業		
予算額（千円）	決算額（千円）	不用額（千円）	予算区分	
22,474	22,430	44	経常 施策 ・公共・単独	
事業の概要 (課題と目的)		急激な社会変化や高度情報化の進展により、図書館利用者の要求は、多様化・高度化している。地域の情報拠点、生涯学習支援施設として、市民の自主的、自発的な学習活動を支援するため、資料・情報の収集、提供及び学習機会の提供に努める。		
事務事業の内容 (成果、結果、執行状況等)		<p>図書館資料の購入及び廃棄により、蔵書の新陳代謝を進め、新鮮で豊かな資料・情報を収集し、市民が必要とする情報提供を行い、利用促進を図った。</p> <p>新規購入冊数等 図書（13,798冊）、AV資料（260点）、 雑誌（180種）、新聞（10紙）</p> <p>利用者用コピー機及びインターネット端末を設置。 「夏の夜のちょっと怖いお話会」「夏休みこども探検隊&サイエンス工作教室」「図書館まつり2009」等各種行事及び定例お話会の実施。</p>		
自己評価	評価年度	平成22年度		平成21年度
	妥当性	Ⓐ	B C D E	Ⓐ B C D E
	効果性	A	Ⓑ C D E	A Ⓑ C D E
	効率性	A	Ⓑ C D E	A Ⓑ C D E
前年度からの改善状況		より多くの人々が図書館に来てもらえるように、夏休みや秋の読書週間に実施する行事の内容を見直した。		
今後の方向性（継続、廃止、その他）		今後も継続して、市民の要望を的確に把握し、資料、情報の収集、提供、新陳代謝を図り、地域の情報拠点、生涯学習支援施設として質の高いサービスを提供する。		

事務事業等の自己点検評価票

担当課所：図書館

事務事業名		学校図書館支援推進事業					
予算額（千円）	決算額（千円）	不用額（千円）	予算区分				
10,199	10,164	35	経常・ <u>施策</u> ・公共・単独				
事業の概要 （課題と目的）		学校図書館を支援するために学校図書館支援員4名を小中学校に派遣し、図書館整備、読書指導、学習指導等を行うことにより、学校図書館の機能の充実・強化を図る。子ども達の聴く力、書く力、読む力が育ち、コミュニケーションが円滑になり、活力ある学校生活をおくることができるようになる。					
事務事業の内容 （成果、結果、執行状況等）		<p>大生院小、新居浜小、船木中、北中、西中、中萩中大生院中の7校の図書館整備を実施した。</p> <p>「学校図書館を利用した授業実践について」鎌田和宏先生による研修会を実施した。（学校関係者等42人参加）学校図書館支援用図書 849冊を購入し、調べ学習、授業支援で活用した。</p> <p>ブックトーク等55講座を実施。（児童生徒2,900人参加）。学校図書館活性化推進校としての船木小、多喜浜小、船木中の支援を重点的に行った。</p>					
自己評価	評価年度	平成22年度		平成21年度			
	妥当性	A	ⓑ	C D E	A	ⓑ	C D E
	効果性	Ⓐ	B	C D E	A	ⓑ	C D E
	効率性	A	ⓑ	C D E	A B	ⓒ	D E
前年度からの改善状況		環境整備が終わった学校には調べ学習の資料提供や授業支援を行った。					
今後の方向性（継続、廃止、その他）		子どもたちに「調べる力」、「自ら学ぶ力」を身につけさせるため、今後も継続の必要性がある。					

「学識経験者の意見」及び「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

○移動図書館運営事業

「学識経験者の意見」

- ・移動図書館の配置場所ごとに読書サークルづくりを進められないか。多分あると思うが、そのサークルの人たちが移動図書館の手伝いをするようにしたらどうか。
- ・よい取組なので続けていただきたい。可能なら、回数も増やして実施されることを望みます。
- ・平成19年度の評価・点検で移動図書館活用率アップへの努力をとの提言に対し全職員、方策改善に真摯に取り組み、6ステーションの追加、小学校巡回時間の見直し、更に長期入院者、施設入所者など図書館への通館困難な方へのサービスを開始した。きめ細かな優しいまちづくりにつながる対応と高く評価します。様々な改善で貸し出し数も本年度は大幅に増加、数値にも成果は現れています。創意工夫を重ね、いかに住民へのサービスを広め、深めていくか職員全員で知恵を出し合い進化させてください。

「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

移動図書館については、定期的に利用状況を検証し、ステーションや巡回時間の見直しを行っております。今後も市内全体を図書館サービス網で結び、子どもから高齢者まで利用しやすい工夫を考え、改善を図りながらより良いサービスに努めます。

また、学校への読み聞かせボランティアや読書サークル等との交流も検討いたします。

○図書館利用促進事業

「学識経験者の意見」

- ・非常に積極的に市民が集まってくる仕掛けをされており、好ましいと思いますが、貸出カードの登録者数からいうとまだ市民の半数は利用していないことになっていますので、もうひと頑張りして頂きたい。
- ・多目的ホール等の利用促進に努めて頂きたい。
- ・生涯学習支援施設及び地域情報拠点としての機能を拡充すべく年々積極的に改善を加え、新たな方策も創出しながら市民に親しまれ信頼される図書館に変容しつつあること

高く評価します。特に「図書館まつり2009」実施等で子どもから高齢者まで各世代の市民を楽しく魅きつけ入館者増へ、貸し出し点数増へ、読書人口増へつないでいることは素晴らしいです。

多目的ホールの利用も年々充実し、ビジネス支援、医療健康支援、行政支援、お話し会などに活用され市民に役立つ図書館としての機能を果たしつつはありますが、研修、学習施設としてあれだけ環境的に恵まれたホールは数少ないのですから、もっともっと利用度アップにチャレンジしてみてください。平成21年度は青壮年層のグループの青年会議所関係の利用が多くなっていたのは感心しました。

「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

ブックスタート時や新1年生への図書館カード発行を行っていますが、より一層PRに努め利用を伸ばす努力をいたします。また、多目的ホールについても関係機関と連携しながら利用促進を図ってまいります。今後も魅力ある図書館施策を実施し、入館者増を目指します。

○学校図書館支援推進事業

「学識経験者の意見」

- ・ 教員対象に図書利用の仕方、調べ学習の仕方の研修会を是非やってほしい。
- ・ 自ら調べ、自ら学ぼうとする姿勢は、大人になっても大事なことであり、是非とも継続して頂きたい。
- ・ 学校図書館支援員4名を小中学校図書館へ派遣、2年目を迎え更に大きな成果をあげています。図書館整備、読書指導はもちろんですが、学習への支援は期待していた以上の充実をみせています。支援員の適切な指導の下で資料を選び調べ、レポートにまとめる、自分の意見も表現していく。調べ学習ができるようになり「自ら学ぶ力」の育成に大いに貢献できています。教員と一体となり、研究授業にも参加し、学習の下支えになり授業支援にも力を発揮しています。良きリーダーの下、真摯に研修、学習を積み意欲的に取り組んでいる支援員の活躍ぶりは教員、子どもたちに明るい活力を与えています。不登校児が教室には入れないが、学校図書館へは登校できるという子どもも出てくるまでになっているそうです。成果は予想以上です。更なる増員と拡充を是非に望みます。

「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

計画的な学校図書館活用指導、教職員と連携しながら授業や調べ学習における資

料の収集、情報提供に重点を置きながら支援を行ってまいります。

また、児童生徒だけでなく教職員への図書館利用等の研修も行い、図書館機能活用教育の重要性を紹介してまいります。

○その他事業

▪職員互いに知恵を出し合い、改革改善を試みつつ新しい企画も創出実現させ「市民に役立つ図書館」に進展させています。益々市民に信頼される図書館になってきています。

特に読み聞かせ、お話し会、ブックスタート事業等子育て支援の充実は県内外から高く評価されモデル館のようになっています。全国的にもトップレベルの図書館といっても過言ではないくらいに進展しています。幼児期から本に親しむ習慣の育成に益々力を尽くして下さい。

「評価結果等を踏まえた今後の取組の方向性」

市民に親しまれ、役立つ図書館を目指し、職員一同改革改善を図りながらサービスの向上に努めてまいります。